

積立を活用することによる メリットはこう伝えよう



ファイナンシャルプランナー 上村 武雄

資産形成を検討するお客様に伝えたい「積立を活用する7つのメリット」について、トーク例とともに解説する。

① 誰でも 少額から 無理なく始める ことができる

そんな余裕はない——、資産運用の話をする、多くのお客様はこのように反応する。「運用」という語感から、50万円や100万円といった金額を想定しているのだろう。

もちろん、そうした運用もあるが積立は違う。まとまった資金がない人でも無理なく始められるのが魅力だ。金融機関にもよるが、1000円〜1万円程度から始めることができる。

積立は基本的に、過去から蓄積した資金ではなく毎月の収入から行う。少額とはいえ毎月の資金負担は不安というお客様で

も、月々の家計収支を見直すと毎月1万円程度は捻出できることがほとんどである。

外貨預金や投資信託などの元本が変動する商品でも、積立なら少額からスタートでき、値動きに一喜一憂せず、無理なく資産形成を行うことが可能だ。

こんなトークで伝えよう

担当者…将来に備えて、資産運用や貯蓄等はされていますか？
お客様…やらなきゃとは思いますが、そんな余裕はないです
担当者…少しずつ、無理のない範囲で準備していくという方法もありますよ。例えば生活費から毎月1万円ずつ貯蓄されることは可能ですか？

お客様…そうですね。1万円くらいなら大丈夫です
担当者…それでしたら、積立という方法がオススメです。無理なく始められますから、続けていくことで、将来に向けて資産を作っていくかがでしょうか

が知れている」と思うお客様もいるかもしれない。

実は毎月1万円の積立でも、住宅ローンのように35年間続けられ、利息が付かなくても35年後には420万円にもなる。ちょっと頑張れば2万5000円ずつ積み立てれば、35年後には約1000万円の資産を作ることができます。

③ 長期・継続 することにより 大きな目標も 達成できる

本は低金利が続いているため、定期預金では利息がほとんど期待できない。これは積立でも同様である。それでも、定期預金を利用した積立を行うお客様が多いのは、「長期」にわたって「継続」できる点に魅力を感じているからだ。

積立は、短期間では意味がなく、長期間でこそ力を発揮する。塵も積もれば山となる——を地で行く運用が積立だ。

毎月1万円や2万円といった金額なら、無理なく長期間続けることが可能となる。ただ「少額ならいくら積み立ててもたか

こんなトークで伝えよう

担当者…毎月、いくらくらいの積立が可能だとお考えですか？
お客様…毎月口座に5万〜6万円は残っていますよ
担当者…それでしたら、毎月2万5000円ほど積立に回してみたいかがでしょうか。この金額なら無理なく続けられると思いますよ

お客様…それで貯まりますか？
担当者…例えばお客様が60歳になるまでの35年間、2万5000円の積立を継続すれば、約1000万円の資産が作れます

② 様々な 選択肢の中から 商品を選ぶことが できる

様々な選択肢があることも積立の魅力の一つだ。大きく分けて、円預金、外貨預金、投資信託、平準払い保険の4種類がある。お客様は目的や求めるリターン、許容できるリスクによって選択が可能だ。

利回りよりも安全性を重視するのであれば、円預金を選択する。為替リスクは取れるがそれ以外のリスクは嫌だというのであれば、外貨預金を選択する。様々な資産で運用し、ある程度積極的にリターンを得ようというのであれば、各種投資信託を選択する。

運用益よりも、死亡保障、介護保障、医療保障といった各種保障を重視する、保険の仕組みを使って運用したいというのであれば、平準払い保険を選択すればよいだろう。それぞれ低額からでき、組み合わせることも可能だ。

なお、平準払い保険は一定期間解約できない、あるいは中途解約すると不利益を被ることもあるので、今後の資金計画なども重要となる。

こんなトークで伝えよう

担当者…ひと口に積立と言っても様々な選択肢があり、またその選択肢の中でも多種多様な商品に分かれています
お客様…定期預金だけではないんですね

担当者…はい。外貨預金や投資信託、保障に重点を置いた平準払い保険などがあります。お客様の目的や求める利回りなどに合わせて選択いただけます